

サムハラ信仰についての研究

怪我除けから弾丸除けへの変容

渡邊一弘

Study of Samuhara Belief : Transformation from Protection against Injuries to Protection against Bullets

WATANABE Kazuhiro

はじめに

- ① 研究史
 - ② 江戸時代のサムハラ
 - ③ 明治期のサムハラ
 - ④ 田中富三郎の活動
 - ⑤ 日中戦争期のサムハラ
 - ⑥ 戦後のサムハラ信仰
 - ⑦ サムハラの字義
- 最後に

【論文要旨】

日中戦争中の弾丸除けの御守である千人針や日の丸の寄書きを見てみると、かなり頻繁に出てくる見慣れない漢字のような文字「摺拵摺拵（サムハラ）」。その文字は千人針のみならず衣服に書き込まれたり、お守りとして携帯された紙片に書かれたり、戦時中の資料に様々な形で見られサムハラ信仰とも言うべき習俗であることが分かる。

戦時中のサムハラ信仰は、弾丸除け信仰の一つに集約されていたと考えられるが、その始まりは少なくとも江戸時代に遡り、その内容は、怪我除け、虫除け、地震除けなど多岐にわたっていた。「耳囊」をはじめとした江戸期の随筆にこの奇妙なる文字、あるいは符字とも呼ばれる特殊な漢字が度々紹介されている。

その後、明治時代になり、日清・日露戦争といった他国との戦争に際して、弾丸除けのまじないとして、活躍することとなる。出征する兵士に持たせるお守りとして大量に配られ、その奇妙なる文字は兵士たちの間で弾丸除けの俗信として広がっていった。なかでも田中富三郎という人物の活動がサムハラ信仰を全国的に知らしめるきっかけ

けとなり、戦時中のサムハラ信仰を全国的に普及させ、現在のサムハラ神社に引き継がれている。

俗信の研究の重要性は、宗教などに権威化されたお札などと違って、民間信仰のなかから生まれ、少しずつ様々な意味づけがなされ、いつの間にか人々がその奇跡を信じ、成立するものである。戦時中の人々は、弾丸除けの俗信を信じることで、その現実を乗り越えようとした。

こうした俗信の由来は、その時代時代に信じやすいように様々な逸話が加えられ、加工されていく。その時代のなかで解釈することと、その俗信の変化を通史的に整理することと、その両面が研究として必要となる。

サムハラ信仰の研究は少なからずあるが、断片的であり、通史的に現代までを俯瞰する研究はない。本稿では、江戸期に始まるサムハラ信仰を現代まで俯瞰することを目的とする。

【キーワード】 俗信、信仰、戦争、符字、弾丸除け、怪我除け